

**週刊 タバコの正体**

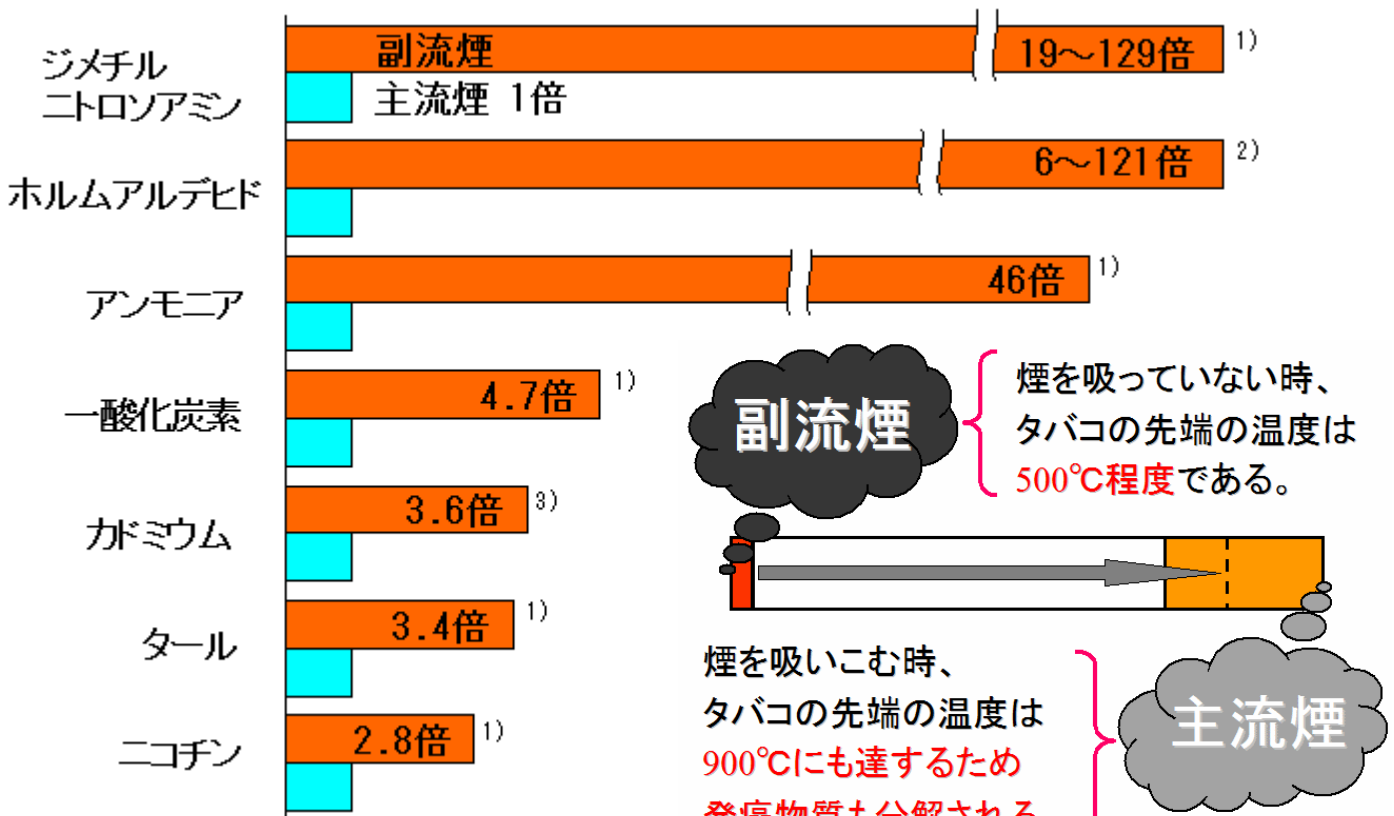
現在、人が集まるような所のほとんどは禁煙で、灰皿は人目に付かない離れた所にしか設置されていません。タバコの煙は人体に有害であるのに加え、そのニオイを不愉快に感じる人が増えてきているので、この傾向はますます加速するでしょう。

そもそも、喫煙者が自分の吸いたい時に所かまわず吸い始めてしまうと、そのまわりの人は、他人のタバコの煙を無理やり吸わされる“受動喫煙”をしてしまうことになります。だから、いろんな場所や施設が禁煙となっているのは当然の成り行きです。

そしてなんと、この無理やり吸わされる他人のタバコの煙(タバコの先から出る副流煙)は、喫煙者本人が吸い込む煙(主流煙)よりもかなり有毒で危険だということを知っているでしょうか。下のグラフにあるように副流煙はタバコに火が付いている間、ずーっと低温でくすぶり続ける煙なので発ガン物質のジメチルニトロソアミンなどの有害物質の濃度が驚くほど高いのです。

この事実を知っている人少ないので“受動喫煙”を甘く見ている人は多いのですが、本当は「近くで吸わないで」と言うべきだと思いますか。

産業デザイン科 奥田 恭久



1) 最新たばこ情報「主流煙と副流煙」  
 2) 厚生労働省たばこ煙の成分分析について  
 3) 厚生省喫煙の生理・薬理: 喫煙と健康; 48: 1992

日本生活習慣病予防協会「紫煙の怖さと生活習慣病予防」ページから